

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	実習 2	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	MAエンジニア専攻		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	120時間
単位数	4単位		授業形態	実習			
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。項目によってHDD、ヘッドホンなど。						
担当教員情報							
担当教員	伊藤			実務経験の有無・職種	有・MAエンジニア		
学習目的							
MA専攻は他のコースとは異なり、映像が使われている。よって音以外にも映像の知識や技術が求められる。その映像も多種多様存在しており、TV番組、CM、映画、イベント、アニメ等々。これらの作品のナレーションやセリフを録音していくのがMAの作業である。これらの録音にはそれぞれ特徴があり、どのような作品でも適切な録音ができるように、ミキサー・アシスタントの役割を理解する。スタジオはBst、Cstのどちらかを使用するので、2つの異なるスタジオのシステムを理解しMA作業ができることを目的とする。							
到達目標							
Bst、Cstのシステムを理解し、MA作業ができるようにする。特にナレーション録りにおいては通常Na録り、CMNa録り、アフレコの3つに重点を置き、それぞれの違いを理解し、ミキサーとアシスタントのオペレーションとセッティングをおこなえるようにする。また、音声編集や音楽編集、映像の取り扱いなどを理解し、MA全体の作業ができることを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	基本はプリント資料を適時配布するが、各自で実習専用のメモ帳を用意すること。この実習は演習と連動した科目である。どちらかを休むと理解ができなくなり、付いていけなくなることがあるのでしっかり出席すること。また、同じ作業を一人ひとり行うこともある。作業をしていない間休むのではなく、人の作業を観るのも技術の向上になる。制作ではグループを組み、役割を振ることもある。						
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	20%	試験と課題を総合的に評価する。				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	前期分復習1			スタジオシステムを再確認する。			
2回	前期分復習2			CDやマイクを卓に立ち上げPro toolsに録音をすることができる。			
3回	スタジオシステム1			Bstの音声信号・映像信号・TCの流れがわかる。			
4回	スタジオシステム2			SSL-SL4000Eがわかる。			
5回	スタジオシステム3			MAにおけるPro toolsオペレーションができる。			
6回	スタジオシステム4			BstでMA作業が行えるようになる。			
7回	音声編集			音声編集を行いPro toolsのショートカットや編集ができる。			
8回	スプリットコンソール			スプリットコンソールとインラインコンソールの違いがわかる。			
9回	スタジオシステム5			CstでのNa録音ができる。			
10回	Na録音2（VP＆オンリー）			Na録音の基本がわかる。			
11回	復習3			ここまでの理解度を確認する。			
12回	復習4			各自の弱点し、卓を使った作業ができる。			
13回	Na録音3（CM）			CMでのNa録音がわかる。			
14回	Na録音4（CM）			CMのNa録音・編集ができる。			
15回	Na録音5（アフレコ）			アフレコの録音セッティングができる。			

授業計画（１６回～３０回）

回	授業内容	各回の到達目標
１６回	Na録音6（アフレコ）	アフレコ録音についてわかる。
１７回	スタジオシステム6	Cstの音声信号・映像信号・TCの流れがわかる。
１８回	音楽編集1	リズムに合わせて音楽を編集できる。
１９回	音楽編集2	尺に合わせて音楽を編集できる。
２０回	MA作業1	同録の整音ができる。
２１回	MA作業2	複数のPro toolsで作業したものを一本化することができる。
２２回	MA作業3	Na録音をし整音ができる。
２３回	MA作業4	アナログコンソールでのMIXができる。
２４回	MA作業5	デジタルコンソールでのMIXができる。
２５回	EQ & Comp	EQとCompを理解し音を作ることができる。
２６回	Effector	Pro toolsのプラグインを理解し音を加工できる。
２７回	制作1	グループで作品を制作し完成させる。
２８回	制作2	グループで作品を制作し完成させる。
２９回	制作3	グループで作品を制作し完成させる。
３０回	制作4	グループで作品を制作し完成させることができる。

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	実習 2	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	レコーディングエンジニア専攻		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	120時間
単位数	4単位		授業形態	実習			
教科書/教材	演習で資料プリントを配布する。項目によってHDD、ヘッドホンなど。						
担当教員情報							
担当教員	鎌田・三好			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア、MAエンジニア		
学習目的							
レコーディングミキサー卓の基本スタイルの取り扱いを覚えながら、信号の流れを理解する。今期ではポータブルミキサーを使いながら旧来のスピリットコンソール、そしてインラインコンソールへと変化していった過程を追いながら音声信号の流れと処理を理解していく。操作とその意味をしっかりとイメージできるようになることを目的とする。また、レコーディングエンジニアへ進路を取っていく学生に取ってはスタジオ研修時の基本となる行動や姿勢も学んで行く。							
到達目標							
アナログ卓とデジタル卓の違いを操作、仕組みとともに理解していく。近年はProToolsを基本としたレコーディングシステムがスタジオの基本となっており、ProToolsとミキサー卓の繋がり方を理解しながら様々な音の流れを理解し、基本的な録音操作ができるようになることを目標とする。また、アーティストとのコミュニケーションを取りながらチームで作品を作っていく姿勢も学んで行く。							
教育方法等							
授業概要	基本はプリント資料を適時配布するが、各自で実習専用のメモ帳を用意すること。この講義は演習と連動した科目である。実際のスタジオワークの手順、ミキサー卓の操作などを理論立てて理解し、実習を効率よく実施するための予備知識や復習となる。音の流れと電気の流れをイメージしやすくしておくことにより、音が出ないなどのトラブルにも素早く正しく対応できるようになることを目指す。項目によっては班ごとに順番を入れ替えることもある。						
注意点	音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する。				
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する。				
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する。				
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	前期の復習			スタジオ回線の復習とマイク・スタンド・ケーブルの扱いが適切にできる。			
2回	デジタル卓マスターモジュール			デジタル卓マスターモジュール、マイクの立ち上げができる。			
3回	マイク・DI・ケーブル			マイク・DI・ケーブルの役割についてわかる。			
4回	譜面の見方・カウンター			Protools、譜面の見方・カウンターの取り方がわかる。			
5回	Rec mode回線①			Rec mode回線①スプリット型コンソールの思想ついてわかる。			
6回	Rec mode回線②			Rec mode回線②スプリット型コンソールを再現し、流れがわかる。			
7回	SSL4000E①			SSL4000E① マスターモジュールを扱うことができる。			
8回	SSL4000E②			SSL4000E②I/Oモジュール(Rec Mode)についてわかる。			
9回	SSL4000E③			SSL4000E③パッチベイ・マトリックス(Rec Mode)を操作できる。			
10回	SSL4000E④			SSL4000E④ マルチトラック録音、ProTools(Rec Mode)がわかる。			
11回	SSLまとめ			SSL全体の音の流れがわかる。			
12回	SSLまとめ2			SSLをつかった基本的なレコーディグができる。			
13回	デジタル卓①			デジタル卓の基本の考えがわかる。			
14回	デジタル卓②			デジタル卓の基本操作がわかる。			
15回	ボーカルセッティング			ボーカルセッティングができる。			

授業計画（１６回～３０回）

回	授業内容	各回の到達目標
１６回	ボーカル録音実習Ast	Astのシステムでヴォーカルレコーディングができる。
１７回	コンソール回線復習、Bstボーカルセッティング	コンソール回線を確認してBstでヴォーカルレコーディングができる。
１８回	ボーカル録音実習Bst	ミュージックアーティスト科とコラボレーションしたレコーディングができる。
１９回	デジタル卓①～②復習、Ast録音セッティング	デジタル卓を使ったレコーディングの仕方がわかる。
２０回	Ast録音セッティング	Ast録音セッティングができる。
２１回	録音実習（外部アーティスト）	学外のアーティストのリズムレコーディングができる。
２２回	録音実習（外部アーティスト）	学外のアーティストのオーバーダビングができる。
２３回	録音実習復習1	録音データの整理、編集ができる。
２４回	録音実習復習2	録音データの整理、編集、ミックスができる。
２５回	SSL4000E①～④復習	レコーディング前の復習でシステムがわかる。
２６回	Bstリズムレコーディングセッティング	Bstリズムレコーディングセッティングがスムーズにできる。
２７回	録音一日実習（A班）（外部アーティスト）	学外のアーティストのリズムレコーディングができる。
２８回	録音一日実習（B班）（外部アーティスト）	学外のアーティストのオーバーダビングができる。
２９回	SSL4000E(Mix mode)①	ミックスモードの流れ、操作ができる。
３０回	SSL4000E(Mix mode)②	ミックスモードを理解し、ミックスダウンができる。

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	実習2	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	ラジオスタッフ専攻		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	120時間
単位数	4単位		授業形態	実習			
教科書/教材	演習で資料プリントを配布する。項目によってHDD、ヘッドホンなど。						
担当教員情報							
担当教員	加茂・柴・斉藤			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン・エンジニア・ディレクター		
学習目的							
様々な形態の番組作りを通してラジオ番組の制作過程、スタッフの役割全般を学んで行く。近年はラジオは音声だけのメディアとは限らず、インターネットメディアとも連携した番組も増えている。また、映像も絡んだ番組を作って行くこともあり、番組制作者、企画者として将来幅広く活躍する可能性を学生一人一人が取得できることも目的である。番組作りの中で自動的にエンジニアリングについても理解し、番組目的を理解したエンジニアにもなれることも目的の一つである。							
到達目標							
番組の企画、制作、台本作り、配信、エンジニアリングなど全ての工程ができるようになること。機材に強くなることも大切であるが、どのような番組をつくるため、どのような技術やセンスが必要か常に考えながら行動へ移すことができるようになることも大切である。1年次では学内の基本的システムをマスターする。そして他学科の学生、先生、スタッフへのインタビュー、または学外や地域と連携した番組作りにも挑戦してコミュニケーション力も養っていく。							
教育方法等							
授業概要	基本はプリント資料を適時配布するが、各自で実習専用のメモ帳を用意すること。この講義は演習と連動した科目である。実際のスタジオワークの手順、ミキサー卓の操作などを理論立てて理解し、て実践していく。項目によっては班ごとに順番を入れ替えることもある。						
注意点	音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する。				
	小テスト	0%					
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する。				
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表、内容について評価する				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	前期の復習			適切にマイク・スタンド・ケーブルを扱うことができる。			
2回	番組制作の基本			番組作りの基本的ポイントがわかる。			
3回	テーマ番組制作①			テーマに沿った番組企画を立てることができる。			
4回	テーマ番組制作②			テーマに沿った番組制作、音源集めができる。			
5回	テーマ番組制作③			テーマに沿った番組制作全般のながれがわかる。			
6回	ミキサー卓の理解①			スタジオ設置のミキサー卓を扱うことができる。			
7回	ミキサー卓の理解②			スタジオ設置のミキサー卓を扱い、エフェクト処理ができる。			
8回	取材用機器			取材用のポータブル機器を扱うことができる。			
9回	インタビュー番組①			インビュー番組企画を立てることができる。			
10回	インタビュー番組②			インタビュー番組台本をつくることができる。			
11回	インタビュー番組③			番組取材をする事ができる。			
12回	インタビュー番組④			インタビュー素材の編集ができる。			
13回	インタビュー番組⑤			番組完成し公開することができる。			
14回	ミキサー卓の理解③			ミキサー卓とProToolsの連動についてわかる。			
15回	ミキサー卓の理解④			ミキサー卓と様々な外部機器とを連動して使うことができる。			

授業計画（１６回～３０回）

回	授業内容	各回の到達目標
１６回	インターネット番組①	インターネットと連携した番組企画を立てることができる。
１７回	インターネット番組②	インターネットと連携した番組台本をつくることができる。
１８回	インターネット番組③	インターネットと連携した番組取材をする事ができる。
１９回	インターネット番組④	インターネットと連携した番組素材の編集ができる。
２０回	インターネット番組⑤	インターネットと連携した番組完成し公開することができる。
２１回	PA&システム①	可搬型ミキサーをつかってシステムを組む事ができる。
２２回	校内放送番組制作①	校内で放送する生番組企画を立てることができる。
２３回	校内放送番組制作②	校内で放送する生番組制作、音源集めができる。
２４回	校内放送番組制作③	校内で放送する生番組制作全般のながれがわかる。
２５回	PA&システム②	可搬型ミキサーをつかって、校内で放送ができる。
２６回	地域連携番組①	地域と連携した番組企画を立てることができる。
２７回	地域連携番組②	地域と連携した番組台本をつくることができる。
２８回	地域連携番組③	地域と連携した番組取材をする事ができる。
２９回	地域連携番組④	地域と連携した番組素材の編集ができる。
３０回	地域連携番組⑤	地域と連携した番組完成することができる。